

2011年6月29日

保護者の皆様へ

宮古市への義援金についてのご報告

桐朋学園男子部門 理事 浦島洋紀

例年よりも早い梅雨入りに加え、このところ気温の高い日が続き、教室でも節電を意識しながらエアコンを使う日々を送っております。また、東北の被災地も梅雨の時期を迎え、復興の動きへの影響が気になるところです。

さて、6月16日（木）に名取前 PTA 会長、村松中学部長とともに宮古市の田老総合事務所を訪問し、皆様からお預かりしました義援金をお届けしましたので、ここにご報告いたします。

◆義援金総額：2,203,236 円

- 《内訳》
- ・PTA 募金活動：974,339 円
 - ・PTA リサイクルバザー収益金：86,497 円
 - ・中高生徒会基金：1,069,893 円
(福祉団体への寄付を主たる目的として数年間積み立てられた桐朋祭黒字基金)
 - ・桐朋祭委員会募金活動：72,507 円

当日は、田老総合事務所地域振興課の鳥居課長、大下主査が応対してくださいました。鳥居課長より、「遠路、田老までお越しいただいたうえ、心温まる義援金、誠にありがとうございます。被災者のために大切に活用させていただきます。」とのお言葉をいただきました。

その後、大下主査の案内で、被災した田老地区の状況を視察させていただきました。がれきの撤去作業はかなり進んでいましたが、町の象徴であった防潮堤は破壊され、漁港に船はなく、家並みがなくなった現状を目の当たりにしますと、自然の力の脅威を感じずにはられません。また、避難所となっているグリーンピアも訪問し、完成した仮設住宅も拝見しました。

(※後日、学校ホームページに当日の現地の写真・動画をアップします)

今後、どのような復興プランがつけられ、町の再起・復興にどれだけの時間が必要なのか、今はその目途さえ立っていません。大下主査ご自身も家を流された被災者ですが、「もとの場所に住みたいのです」と繰り返しおっしゃっていたのが印象的で、それが多くの被災者の本心であろうと感じました。

短時間の滞在でしたが、復興の歩みが着実に進むことを願い、そして、再び修学旅行で中学3年生が訪れる日を思いながら、田老の町を後にしました。